

## 【ADL・IADLは何ですか？】



介護保険制度は、ADL・IADLによって「できる・できない」を調査し、その結果に基づき必要な介護レベルを決めています。

「介護支援専門員」（ケアマネージャー）は、ADL、IADLを客観的に判断し介護サービスの必要な資料としています。

①ADL（Activity of Daily Living の略）は、身体的な自立度を生活機能からみた目標で日動生活動作能力と訳されています。日常動作がどの程度自分の力で遂行できるかを計るための尺度であり、介護の必要度も表します。

もともとリハビリテーション分野における患者の機能障害や効果測定のために開発されましたが、最近では高齢者の自立の尺度として用いられることが多くなってきております。

食事、排泄、着替え、睡眠、清潔、移動などの身の回りの動作などと言った最も基本的な生活機能の項目を、それぞれ自立、一部介護、全介助の3段階で評価し、総合点が高いほど自立度が高いと判定されます。

②IADL（Instrumental Activity of Daily Living の略）は、手段的日常生活動作能力と訳されています。電話の使い方、買い物、食事の支援、家事、洗濯、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理などの項目を測定し、自立した社会生活を送るうえで必要な能力をもっているかどうかを判定します。

的確なケア計画を作成するためには、家事一般、金銭管理などを自立度と実施度の困難度合いの観点から見ていくことが必要になっています。また、これまでのリハビリテーションでは、日常生活動作の自立をめざしていましたが、最近では、日常生活関連動作の向上も重要視されていますが、知的障害、情緒障害から、感情障害など発達上の障害がある人については、特に配慮が大切です。